

新刊

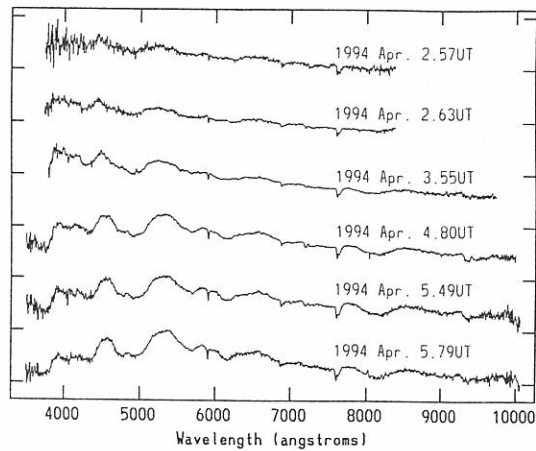
# 光 学 天 文 連 絡 会

Group of Optical and Infrared Astronomers (GOPIRA)

## 会 報

No. 71

SN 1994 I in M 51



佐々木実氏 他 岡山天体物理観測所188cm望遠鏡による

平成6年4月28日

光学天文連絡会事務局  
(京都大学理学部)

目次

1994年度光学天文連絡会運営委員選挙結果	1
各大学の天文台計画と大学連合天文台構想	2
国立天文台運営協議員会報告	8
岡山天体物理観測所の観測データの公開についての要望書	9
天文情報処理研究会からのお知らせ	11
光天連会員の動向について(続)	14
会員異動	15

第18回光学天文連絡会 総会のお知らせ

第18回光学天文連絡会総会を下記の要領で開催致します。会員の皆様の御参加をお願い致します。

日時 1994年5月17日(火) 学会講演終了後  
 場所 学会会場(B会場の予定)  
 議題 1993年度運営委員会、会計、活動諸報告等  
 1994年度体制、活動方針等

1994年度光学天文連絡会運営委員選挙結果

昨年度3月に行われた上記選挙結果について報告します。

有権者数 268名  
 投票者数 56名(投票率 21%)  
 有効票数 259票  
 無効票数 0票  
 白票数 21票

- |               |     |
|---------------|-----|
| 1、谷口義明(東北大学)  | 42票 |
| 2、市川伸一(国立天文台) | 41票 |
| 3、太田耕司(京都大学)  | 40票 |
| 4、上野宗孝(東京大学)  | 33票 |
| 5、戎崎俊一(東京大学)  | 21票 |
| 6、岡村定矩(東京大学)  | 8票  |
| 7、佐藤修二(名古屋大学) | 7票  |
| 8、市川隆(東京大学)   | 6票  |
| 9、吉田道利(国立天文台) | 5票  |
| 10、舞原俊憲(京都大学) | 5票  |

次点 大谷 浩(京都大学) 5票

尚、吉田、舞原、大谷の3氏については、同票でしたので、光天連運営委員選挙細則(4)(会報55号)により、年齢の若い方から順に当選としました。

以上

光学天文連絡会事務局

運営委員会開催のお知らせ

運営委員会を下記の要領で開催致します。運営委員の方は御出席お願い致します。

日時 1994年5月17日(火) 昼休み  
 場所 学会会場付近(当日掲示します)

## 各大学の天文台計画と大学連合天文台構想

谷口 義明 (東北大学 理学部 天文学教室)

### 1. はじめに

東大は木曾観測所、京都は飛騨及び花山天文台と大宇陀観測所を擁しているが、東北大を初めとする多くの大学では天文学の研究に有効な天文台を持っていないことは周知の事実であり、国内における大学レベルでの光学・赤外線観測の分野の健全な発展に大きな障害をもたらしています。また既に天文台を持っている東大及び京大でも次期天文台の可能性を議論すべき時期にきています。このような状況に鑑み、ここ2年間にわたり、光天連として各大学レベルでの観測天文学の活性化に関心を寄せ、特に大学天文台の必要性について議論してきました。平成5年4月に各大学の天文台計画の進捗状況をサーベイしたのでその結果について報告致します。また新たな計画としてハワイ大学との共同運営する天文台の可能性についても合わせて報告いたします。

### 2. 各大学の状況と将来計画

光天連からの上記の問い合わせをしたところ、東北大、東大、名大、京大、及び大阪教育大の5つの大学から返答がきました(別紙参照)。これらの返答を読んで個人的な意見を以下にまとめます。

やはり特筆すべきは東大の実績と将来に対する視点が定まっていることである。また、東北大の小口径望遠鏡計画は部局内のコンセンサスが得られている点で将来性がある。名大は佐藤修二氏が移られたばかりであり、今後の展開が楽しみである。大阪教育大は教育目的の50 cm 望遠鏡計画とはいえ、天文学の基盤整備と言う点で高く評価されるだろう。一方、京大は宇宙物理・物理・天文台3者の足並みが多少揃っていないような印象を受ける。

大学院重点化の進む中で各大学とも奮闘してる様子は伺えるが、まだまだ実現までの努力が必要である、というのが結論だろうか。いずれにしても光天連としてはどの計画についても積極的に支援していく体制をとるべきだろうと強く感じます。

### 3. 大学連合天文台の可能性について

すばる計画が順調に進んでいるとはいえ、現時点で大学天文台の可能性を議論するのは難しい問題をはらんでいます。しかしながら欧米で見られるような大学連合天文台の建設の可能性(サイトはすばると同様に海外を想定)を探ることは天文コミュニティの健全な発展を考慮すると非常に重要な問題です。

過日、E mail で御連絡したように、ハワイ大学の次期小口径望遠鏡計画に日本の大学が相乗りする計画が informal ではありますが、ハワイ大学(Drs. Len Cowie 及び Richard

Wainscoat)との間で進められています。ハワイ大学の次期小口径望遠鏡計画は US Gemini 8 m 望遠鏡が既存の UH 60 cm 望遠鏡のサイトに設置されるため、これを機会に小口径の新望遠鏡を設置するというものです。しかしながら 60 cm 望遠鏡移設に対して Gemini からハワイ大学に支払われる金額は 25 万ドルであり、新望遠鏡として 1.3 m クラスのものを想定するとさらに数 10 万ドルの資本投資が必要になります。残念ながらハワイ大学だけではこの予算を捻出できないため、相乗りするパートナーを捜していたという状況です。Cowie 氏らは日本の大学がこの計画に乗ってくれることを歓迎するとのこと。しかしながら、60 cm 望遠鏡の移設は今年の夏頃が予定されており、可能な限り早く予算を捻出できる方が望ましいという状況もあり、今後のこちらの努力に成否がかかっているといえます。

ちなみに現在想定している望遠鏡は DFM 社の口径 1.3 m 望遠鏡であり、RC カセグレン焦点に広視野補正光学系を組み込んだもので、金額的には約 70 万ドル相当になります。また、広視野カメラとしての単機能望遠鏡とし、モザイク CCD 及びモザイク NICMOS カメラのみのダイレクト・モードのみを想定しています。さらに、リモート・オペレーションによる観測で省力化を図ることになっています(ハワイ大学とはいえ大学院生のハレポハクの滞在費及び旅費の補助はかなり大変のようです)。尚、口径の 1.3 m は現在あるドームを有効利用することによるリミットです。もしドームも新しくするのであれば口径への制約はゆるくなります(もちろん予算の制約が非常に厳しくなります)。

この計画に日本側が参加することは日本の大学レベルのインフラ・ストラクチャーを強化する意味で極めて重要だと思われます。どんな形であれ、大学連合(大学共同利用)として運用に参加できる道を模索すべきであると考えます。皆様の御支援をお願いいたします。

## 大学天文台計画調査の依頼

光学天文連絡会では、国立天文台以外で天文学教室を持つ大学の光学赤外線観測部門のさらなる活性化が必要であると考えております。そこで、各大学の当該分野での将来計画及びその進捗状況をサーベイし、議論の基礎としていきたいと考えております。ご多忙中とは思いますが、貴教室における光学赤外線天文台計画等がございましたら、その概要・進捗状況・実現可能性等について簡単なレポートを送っていただければ幸いです。

急なお願いで恐縮ではありますが5月6日必着でお願い致します。

1993年4月22日 光学天文連絡会運営委員長 谷口義明

e-mail: tani@astroa.astro.tohoku.ac.jp

FAX: 022-261-2806

本状送付先: 竹内峯(東北大・天文)、岡村定矩(東大・天文)、佐藤修二(名古屋大・物理)、大谷浩(京大・宇宙物理)、舞原俊憲(京大・宇宙線)

上記メンバー以外に本状を送った方が良いと思われる方がおられましたらご連絡下さい。

[概要]

(要求事由) 東北大学理学部では、昨年より新たに宇宙地球物理学が学科改組により誕生したが、光学赤外線観測用の望遠鏡がないため、研究教育に重大な支障をきたしている。そこで、学科として、この波長域で使用可能な望遠鏡を要求する。

(望遠鏡の機能・性能等)

主鏡有効径 1.5メートル  
 焦点モード カセグレン焦点およびナスミス焦点  
 付帯観測装置 光学域汎用カセグレン分光・撮像機  
 近赤外高性能撮像機(銀河観測用)  
 レーザヘテロダイン分光計(惑星大気観測用)

(設備費概算) 望遠鏡本体のみで7億円

(設置予定地) 福島県阿武隈山地北部の丘陵地

(主な観測計画) 銀河のKバンド光度関数の観測  
 銀河の2次元分光観測および狭帯域フィルタによる観測  
 漸近巨星枝星の変光の観測  
 惑星分子線のヘテロダイン分光

[進捗状況]

1993年12月 東北大学理学部宇宙地球物理学の予算要求の重要な事項としての合意が成立  
 1993年3月 東北大学理学部にて平成6年度予算概算要求の重点事項として承認される  
 1993年6月 東北大学としての平成6年度予算概算要求の重点事項として承認されるよう努力中

[実現可能性]

ひとつの大学の設備要求としては、やや金額が高いため、安易に実現するとは思われない。この夏以降の運動が重要である。

岡村定矩(東大大学院・理学系研究科)

1988年7月1日の旧東京天文台の改組に伴い、東京大学には理学部附属天文学教育研究センター(3.5講座相当;以下センターと略す)が発足し、既存の理学部天文学教室(3講座;以下教室と略す)とともに、学部と大学院の教育と研究にあたることになった。センターは、三鷹キャンパスの本部と木曾観測所から成り、文部省学術国際局の管轄である。木曾観測所の大型シュミット望遠鏡を含む諸設備は、全国の研究者の共同利用に供されている。センターが三鷹に本部を置くことになったのは、国立天文台との共同研究の展開に地の利があることもさることながら、将来大学天文台としての発展を目指すという意志の表れでもあった。木曾観測所は全国共同利用とは言え、大学天文台としての機能もすでに一部果たしつつある。

東京大学では平成4-5年度の二年計画で大学院理学系研究科が部局化された。従来の天文学専攻は平成5年度より、天文・宇宙理学大講座(教室)と観測天文学大講座(センター)から成る、「天文・宇宙理学専攻」として新たな出発をした。この専攻には、物理学専攻、教養学部、国立天文台、宇宙科学研究所の一部の教官も加わっている。

大学院部局化に伴って、新たに導入されるシステムに広域理学大講座がある。これは新しい研究領域の開拓や新しいプロジェクトを行う時限的な講座で、各専攻とはかなり独立した形で運営される。この大講座は学部生を持たず、大学院生のみを持ち、関連する各専攻からスタッフが「出向」して研究を推進する。研究が完了したらスタッフはそれぞれの原専攻に復帰する。広域理学大講座のうち大型施設を必要とするものは、柏キャンパスにおいて研究を展開することが考えられている。しかし、天文が中心となる大講座は、既に三鷹キャンパスにセンターがあること、および国立天文台との連携を考えて、柏ではなく三鷹キャンパスにおいてプロジェクトを展開しようとしている。

我々は、この広域理学大講座研究プロジェクトを軸にして、観測面での大きな発展を図り、豊富な実績を有する理論研究との有機的な結びつきを通じて研究の一層の発展を目指している。東大グループではすでに、木曾観測所における可視広視野観測、60cmサブミリ波望遠鏡による銀河面探査、ようこう衛星による太陽活動現象の観測、近赤外ファブリ・ペロー分光器による星生成領域の観測、晩期進化過程にある恒星の観測などから大きな成果を挙げている。さらに、木曾観測所における近赤外撮像観測、国立天文台との赤外シミュレータの共同開発、サブミリ波望遠鏡2号機による南天の探査、米国との共同研究であるデジタルスカイサーベイ(DSS)計画など新しい研究計画もスタートしている。

広域理学大講座研究プロジェクトにおいては、DSSのデータを初めとする莫大な画像データベースの解析システム、8-13μm全域を波長分解能1000以上でカバーする中間赤外線分光器、および近赤外線における広視野撮像観測を可能にする赤外シュミット望遠鏡の三つを開発することにより、宇宙大構造と銀河に関する大量の新しいデータを取得し、理論的解釈を加えて宇宙構造と進化を明らかにしようとしている。これらの開発を支えるために、データセンターと開発実験室という共通の研究基盤の整備も行う。赤外シュミット望遠鏡については、観測対象に従って一定期間毎に設置場所を最適の場所に移すことができるものが構想されている。平成6年度に概算要求が行われるが、このプロジェクトによって大学天文台への一歩が踏み出されることを期待している。

一方東大本郷キャンパスでは、理学系研究科の建物の中央化構想が進んでいる。理学部1号館の建て替えが実現すれば、教室は最上階に近い部分に移り、屋上に教育用として小口径の可視光・近赤外望遠鏡及び電波望遠鏡を設置する計画を持っている。

(科学研究費助成事業・科学研究費助成事業)

P1: 海外中口径 光・赤外線望遠鏡推進 赤外線研究者の長年の悲願！  
よいサイトにおける天文観測  
めどが立たない！

P2: 名古屋大学に小型光・赤外線望遠鏡を設置する。近赤外域の撮像や低  
分散分光偏光観測を行ない、これらを通じて天文学研究、機器開発、学  
生院生教育を行う。  
上記の研究開発の中から、自前の観測機器を海外の適地にある高性能  
の望遠鏡に応用して、天文学を展開する。

口径～60cm 光・赤外線望遠鏡

目的: 天文観測と装置開発

特徴 低放射/光学系可変/可搬  
素子の評価/試作/開発/エシユル/偏光/—  
星形成領域、晩期型星 (探査、偏光、分光、速度場構造)

2年計画 科学研究費(H5/6) 予定

天文台計画等

京大理学部宇宙物理学教室、天文台から予算要求をしている件を下に記します。

天文台 光学赤外望遠鏡(φ=1、3m)、概算要求  
設置場所 美星町

宇宙物理学教室 光学赤外望遠鏡(φ=1、3m)、大学院最先端  
設置場所 大宇陀観測所 研究設備費

宇宙物理学教室 光学望遠鏡(φ=90cm) 概算要求  
設置場所 大宇陀観測所

いずれも実現の可能性は来年度はありません。天文台の計画については、新  
たに検討をはじめることになっています。

京都大学理学部宇宙物理学教室 大谷 浩

岡山天体物理観測所の観測データについて

岡山天体物理観測所の観測データについて

大学天文台に関する調査のFAX拝見しました。私共の大学で進めている計画は、  
規模も小さく、また半分は教育目的でありますため、この調査の対象には当たら  
ないかとも思いますが、概要をお伝えします。

- ①平成5年度に予算がついた。要求額は6、000万円、5月10日すぎ官報告  
示、6月末に決定、完成は平成6年3月中の予定、という状態です。
- ②我々としては、口径50cm程度、カセグレンF比10程度のフォーク式望遠  
鏡を考えています。  
観測装置は、1000×1000画素程度のLN<sub>2</sub>冷却CCDカメラを考えてい  
ます。天文台と研究室はLANで接続し、そこでWSによるデータ解析を予定  
しています。
- ③設置場所は大学の建物の屋上で、すでに5、5mのドームと観測室は完成して  
います。大阪の中心部から約20kmで、空はあまり暗くありません。

大阪教育大学 定金晃三

岡山天体物理観測所の観測データについて

岡山天体物理観測所の観測データについて

岡山天体物理観測所の観測データについて

岡山天体物理観測所の観測データについて

岡山天体物理観測所の観測データについて

岡山天体物理観測所の観測データについて

第30回国立天文台運営協議員報告

日時 1994年2月28日(月) 11時00分-17時00分

場所 国立天文台講義室

出席者 海部(会長)、田原(副会長)、奥田、佐藤、杉本、祖父江、大師堂、土佐、中川、向井(以上台外委員)、石黒、稲谷、木下、小杉、小平、近田、西村、平山、観山、横山(以上台内委員)、台長、管理部長(欠席:牧田)

1. 議事に先だって、野辺山のレインボー計画(45m鏡を含んだ干渉計システム)、水沢のIRIS-P(環太平洋VLBI計画)について、それぞれ研究成果が報告された。
2. 2月21日の教授会で決定された主幹・施設長、運協台内委員の補充について報告があった。(参考までに光天連に関連するものだけを掲げておくと、企画調整主幹:海部宣男、大型光学赤外線望遠鏡計画推進部主幹:家正則、光学赤外線天文学研究系主幹:安藤裕康、岡山天体物理観測所長:前原英夫、堂平観測所長:菊池仙、天文学データ解析計算センター長:観山正見;運協補充:安藤裕康・家正則)
3. 平成6年度予算内示主要事項について報告があった。定員の増加については、望遠鏡推進部に光波干渉技術部門を増設(教授1・助教授1・助手1)、同じく望遠鏡システム部門を整備(助教授1・助手1)、天文機器開発実験センターの整備(助手1)、技術部・管理部の整備として技官・事務官各1がついた。経費については計数整理中であるが、すばる望遠鏡建設費は約33億円、開発実験センター経費が新規につき、望遠鏡推進経費も増額される。
4. 次のように新規採用の人事を決定した。  
太陽物理学研究系 助手 原弘久  
地球回転研究系 助手 三好真
5. 今後の教官人事について議論し、次のように公募を行うこととした。  
地球回転研究系 教授または助教授 1名  
電波天文学研究系 助教授 1名  
光学赤外線天文学研究系および大型光学赤外線望遠鏡計画推進部 教授 2または1名  
教授または助教授 1名
6. 研究交流委員会からの提案に基づいて、次のとおり決定した。  
平成6年度外国人客員教授 W. van Altena  
平成6年度客員教授 中嶋浩一  
同 森本雅樹
7. 名誉教授候補者について議論し、選考委員会を設置した。
8. すばる研究員制度を設けることとし、当面2名で、選考はすばる専門委員会で行うこととした。
9. 研究交流委員会からの報告があった。  
1) 外国人研究員の推薦。Yang Ji(中国)、Zhou Yuan(中国)、J. Souchay(フランス)、Cai Zhengdong(中国)。  
2) 平成6年度研究員の選考。電波分野:増田智、大橋永芳、(補欠:濤崎智佳、なお増田氏は就職が決定した)。その他の分野:小林尚人、土屋俊夫、(補欠:小杉城治、佐々木伸)。  
3) 平成6年度共同利用方針について。研究会・ワークショップ、共同研究、共同開発研究の公募を3月31日締切で行う。
10. 次期台長候補選定の過程について、田原副会長から評議員会員に問い合わせた結果が紹介された。種々議論ののち、今回の経過をまとめておくために、田原・小杉・小平・杉本の4委員からなるWGを作った。

(文責 西村)

天文情報処理研究会からのお知らせ

岡山天体物理観測所の観測データの公開についての要望書

岡山天体物理観測所の観測データの公開について、以下の要望書を3月2日の国立天文台光学赤外・太陽専門委員会に提出しました。

市川伸一

光学赤外・太陽専門委員会 委員各位

要望書

「岡山天体物理観測所の観測データの公開」に関する以下の提案について、早期の実現に向けての議論をしていただくようお願いいたします。

平成6年3月2日 光天連有志

【提案】

天文学の研究を効率良く進めるためには、過去の様々な資産を活用していくための「天文データベース」(観測データのデータアーカイブを含む)の存在が不可欠です。特に、観測データには膨大な情報が含まれており、データアーカイブとして活用していくことが、望遠鏡という貴重な資源を有効利用するために是非とも必要です。すばる望遠鏡においては、国際的にも観測データの公開が強く求められることでしょう。私たちは、すばる望遠鏡に向けてデータアーカイブシステムを作り上げていかなければなりません。そのプロトタイプとして、あるいは、現在の観測データを研究に活用するために、岡山天体物理観測所の観測データをデータアーカイブとしていかなければなりません。

しかし、現在、岡山天体物理観測所の観測データには「公開の原則」がありません。すなわち、データアーカイブを作成しても一般研究者からの利用ができず、データアーカイブの意味がありません。私たちは、現在、そして、将来におけるデータアーカイブの重要性を考え、以下を提案いたします。

岡山天体物理観測所の観測データについて。

観測データの有効利用をはかるため、また、すばる望遠鏡におけるデータアーカイブシステムの技術的・運用的なプロトタイプの作成を行なうために、少なくとも共同利用観測によって取得された観測データは、観測後一定の期間(例えば1年)が経過した後は観測者の占有権を離れ、研究者に広く公開されるものとする。

●光天連有志(五十音順)

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 青木賢太郎 (京大宇宙)     | 田辺俊彦 (東大天文センター) |
| 青木哲郎 (通信総合研究所)   | 中川貴雄 (宇宙研)      |
| 市川伸一 (国立天文台;世話人) | 仲野誠 (大分大)       |
| 市川隆 (東大木曾観測所)    | 西村史朗 (国立天文台)    |
| 戎崎俊一 (東大教養)      | 浜部勝 (東大天文センター)  |
| 岡村定矩 (東大天文)      | 福島登志夫 (国立天文台)   |
| 金光理 (福岡教育大)      | 観山正見 (国立天文台)    |
| 定金晃三 (大阪教育大)     | 吉田重臣 (東大木曾観測所)  |
| 高田唯史 (京大宇宙)      |                 |

補足①海外・国内での公開の現状

- ・東大木曾観測所では、観測者の占有期間をデータ取得後1年間とする「公開の原則」が確立されています。
- ・ING (La Palma) は占有期間原則1年間で、RGOで管理。
- ・NTT (ESO La Silla) は占有期間1年間。
- ・CFHT (Mauna Kea) は占有期間2年間で、カナダデータセンターで管理。

補足②国内でのデータアーカイブシステム開発の現状

- ・木曾観測所においては以前より乾板の検索システムが公開されています。
- ・天文情報処理研究会の「データアーカイブWG」(吉田重臣、吉田道利、市川伸一、ほか)において、岡山天体物理観測所、木曾観測所の観測データを統一的に扱うデータアーカイブの技術的な検討を始めており、本年夏に実用試験システム(ヘッダ項目検索と圧縮画像閲覧によってデータを探し観測所にデータ本体のリクエストを行う)を完成させることを目指して作業中です。もちろん、このシステムは「岡山観測データの公開の原則」が確立されなければ実際には利用できないことは言うまでもありません。

補足③「公開の原則」についての様々な意見(「有志」の間でも細部については意見の相違があり、ワーキンググループや光赤外ユーザーズミーティングで議論するのが適当ではないかと思われます)

- ・データアーカイブの利用にも観測所へのプロポーザルが必要である。
- ・「観測終了後」はあいまいであり、「データ取得後」か「観測期間終了後」か「プロジェクト終了後」かを明確にすべきである。
- ・長期にわたる観測プロジェクトの場合には、「観測プロジェクト終了後」とすべきである。
- ・天候や機器の調子に恵まれずプロジェクトが完結しなかった場合の配慮が必要ではないか。
- ・論文作成を促進するためにも長期プロジェクトとして承認されたもの以外は「一定期間」後、なるべく例外なく公開すべきである。
- ・データを公開できない観測は一般の共同利用観測とは別枠で考えるべきだ。共同利用観測は取得したデータの公開が必須のものと考えたい。
- ・岡山では占有期間「1年」は短いのではないか?
- ・天文学データ解析計算センターが中心的役割を果たすべきである。
- ・データ公開のための人員が現在の観測所内外の人員配置では不十分である。システム作りに貢献しようとしているグループへの財政面などの援助を国立天文台が積極的に行うことによってそれを補うべきである。
- ・今回の提案とは直接関係はないが、教育用や天文普及用の公開画像(非可逆圧縮で天文学にはそのまま使えないようにするなどの工夫をする)も必要である。もちろん観測者の協力が不可欠。

天文情報処理研究会からのお知らせ

<天文情報処理研究会第17回会合>

日時：3月22日午後2時-23日午後3時  
 場所：西はりま天文台  
 参加者：35名  
 世話人：尾久土正己、綾仁一哉  
 テーマ：「情報の公開・配布」

公開天文台ネットワークの実験報告や、今後の方針等についての討論を中心に、次世代ネットワークについての講演や海外天文台のデータ公開の現状報告などが行なわれました。また、WGや宿題の報告も集中的に行なわれました。

- 今後の会合：第18回 6月に木曾観測所で「望遠鏡制御」をテーマに開催の予定。  
 第19回 9月に岡山天体物理観測所で「データアーカイブ」をテーマに開催の意向。  
 (文責：市川伸一)

<天文情報処理研究会活動報告>

天文情報処理研究会(会長：浜部勝、会員82名、発足1990年3月)は、天文学におけるデータ解析に関する情報交換や協同作業を行なうための会です。3カ月に一度の会合や、会報、電子メールに情報交換JIRAFNET、「JIRAFクックブック」や「天文データベース便利帳」などの出版、等等、様々な活動をしています。また、現在以下の3WGが活動しています。

1. 公開天文台ネットワークWG (PUBNET)  
 公開天文台ネットワークを実現するための技術面の検討を行なうWGです。画像転送など基本的な課題はクリアし、現在試験運用中です。今後は試験運用で生じた諸問題の解決に努めていきます。
2. データアーカイブWG  
 当面、岡山天体物理観測所と木曾観測所の観測データのアーカイブシステムの構築を目指しています。夏までに何らかの形を作りたいと考えています。
3. HST-WG  
 修復なったHSTの画像が一般公開される前に、そのデータの活用法を考え、ノウハウを習得することを目指しています。

天文情報処理研究会に関するお問い合わせ、出版物の御希望は、以下の事務局まで御連絡下さい。なお、会員は積極的に活動に参加する意志のある方のみとさせていただきます。単に情報を受け取りたいだけという方の入会はお断りしています。  
 (文責：市川伸一)

天文情報処理研究会事務局

〒181 三鷹市大澤2-21-1  
 国立天文台 天文学データ解析計算センター  
 市川伸一  
 TEL. 0422-34-3604  
 FAX. 0422-34-3840  
 E-mail tenjo@c1.mtk.nao.ac.jp

## 「IRAF クックブック第2版増補2号」が完成しました。

IRAF クックブックは天文情報処理研究会が監修し、国立天文台天文学データ解析センターより発行されています。IRAF クックブック発行の主旨は、日本における天文学データの処理、及び解析の裾野を広げ、同時にそのレベル向上にあります。このレベル向上という言葉の意味には、解析の手法そのものの他に、解析用パッケージの開発能力の向上も含まれています。これは「すばる」をも念頭に置いたものです。

IRAF クックブックも今回では第2版増補2号が発行されることとなりました。今回の増補では解析の手法についてはもちろんですが、解析後の論文などの製作にも役に立つ情報を提供しようという主旨の項目を用意しました（プレゼンに役立つ知識）。また、クックブックそのものの使いやすさを考え、1章から3章までのタスクの索引も用意されました。その他でいえば、ワークステーションの管理初心者の重要な情報源になることを期待して、全国各サイトにおけるハードウェア及びインストールされている解析用ソフトウェアの一覧を用意したわけですが、これについてはJIRAFNETと相まってうまく活用されて欲しいものだと思います。解析手法そのものについては「モザイクCCD用解析ソフト」の使用マニュアルが新しくつけ加わり、また改訂されたものでいえば「木曾CCDの解析マニュアル」、「DAOPHOT解析マニュアル」があげられます。その他には「やさしいCLスクリプト入門」や「ワークステーショントラブル対策」もつけ加わったり改訂されたりしています。これらのものが皆様のお役に少しでも立てれば良いと願っています。

この増補版は原稿執筆者及び登録証返送者には配布されますが、それ以外の方々に配布を希望される方は国立天文台データ解析センターの市川伸一氏までご連絡ください。また、増補版を受け取った方は必ずアンケート付きの登録証を返送くださるようお願いいたします。このアンケートが次回の増補にかされ、より良いIRAFクックブックが出来上がっていくのですから。

最後になりましたが、原稿執筆者の皆様、及びこの増補版の印刷にご助力頂いた東京大学木曾観測所にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

高田 唯史（京大宇宙物理）

## 「天文データベース便利帳 第2版」が完成しました

天文データベース便利帳は、天文情報処理研究会が監修し、国立天文台天文学データ解析計算センターより発行されています。内容は、天文データベース、カタログ等の所在、使い方等についてまとめたもので、第1版増補版の統廃合に更に新たな内容を盛り込んだものになっています。第1版ではありあわせのマニュアルを集めたような形になっていましたが、第2版では書き下ろしが増え、より充実した内容になっています。とりわけ、近年盛んになってきたオンラインの分散型データベースについての章が目立つことが特徴となっています。具体的に、主だった章を挙げますと、データベース天文学概論、国立天文台・その他観測所・大学で利用可能なカタログ・データベース、各種波長での衛星データとその利用法（IRAS、HST、IUE、X線関係）、地球大気線、CDROMでリリースされているデータベース、文献データベース（SIMBAD、NED、INSPEC）、オンラインデータベース（各種ftpサイト、ADS、NCSA mosaic）といった具合です。また、今回は各章毎のマシンリーダー版も用意されています。

天文学研究の上で、カタログ・データベース利用は必須となっている現在、この便利帳が、多くの研究者のお役にたてば幸いです。また、この種の冊子は常に更新・充実してゆく必要があり、逆に利用者からの意見、執筆等の寄与が必要でもあります。この趣旨のために、便利帳にはアンケートを兼ねた登録書がついていますので、是非御返送下さい。

本冊子御希望の方は、国立天文台天文学データ解析計算センターの市川伸一氏までお願い致します。（天文情報処理研究会会員には配布されます。）A4版175頁です。

最後に、お忙しいなか御執筆下さいました方々、印刷発行にあたってお世話になった天文学データ解析計算センターに厚くお礼申し上げます。

太田耕司（京大理）



前回は、大学院生の会員が殆どいないという話でした。今回は、昨年総会において、「2年間(以上)の会費滞納者には最後通告を行いレスポンスが無い場合以降会報を送らない(退会とみなす)」という決議がなされましたが、その後の経過について、記録の意味を込めて報告しておきます。

この決議を受けて、事務局ではまず最初の会報に、上記決議について掲載し、該当者には、何年の分の会費を滞納しているか示し、警告を發しました。(郵便振替用紙は全会員に配布しました。)しかし、残念ながらあまり多くの会費は納入されませんでした。

滞納者が多いためこの段階で退会とみなすのは適切ではないと判断し、運営委員数人と相談した結果、次の会報の表紙に大きく上記決議を書いて注意を喚起しよう(多分多くの会員は会報を開いていないのかもしれないという予想にもとづいています)ということになりました。また、これでレスポンスがなければ、次の会報から発行を停止すると明示しました。

さて、冬に発行する会報の準備を行っている段階になっても相変わらず滞納者は結構多く、中には運営委員経験者まで入っていました。また、当然会に入っていてしかるべきだという人も含まれていました。それで、慌ててメール等で連絡をとれる限りとりましたが、結局会報70号で17人もの退会者をだしてしまうことになりました。(この中にはその後会費を納入して退会取り消しになっている方もおられます。)

1993年度の会費の納入期限は1994年3月31日または次の事務局に引き継ぐまでと考えていますが、92年93年の会費未納者もかなりおられます。決議はいつまで有効なのかわかりませんが、もし今年度も有効ならこれらの会員は要注意です。

個人的感想を書きますと、まず事務手続きが大変面倒になったというのが第1印象です。しかしそれにもまして、思うことは、今は光天連は会員を減らすことを考えるよりも、如何に魅力ある会にするか、そうしてどう会員を増やすかということに努力すべき時であるように思えます。今年度は(も?)、この方向で努力すべきで(あまり妙案はないのですが、、、)、退会処分にせいをだす必要はないのではないのでしょうか。

(太田耕司 庶務)

## 会員異動

### 【入会】

尾久土正己	西はりま天文台 〒679-53 兵庫県作用郡作用町大撫山	
度會 英教	名古屋大学理学部物理学教室U研 〒464 名古屋市千種区不老町	D2
中西康一郎	京都大学理学部宇宙物理学教室 〒606-01 京都市左京区北白川追分町	M1

### 【退会取り消し】

岡崎 彰	群馬大学
秋岡眞樹	通信総合研究所 平磯
川上 肇	

### 【異動】

高遠徳尚	国立天文台 大型光学赤外線望遠鏡推進部 Tel 0422-34-3702	⇐ 理化学研究所
林 正彦	国立天文台 大型光学赤外線望遠鏡推進部	⇐ 東京大学天文学教室
門 正博	大阪樟蔭女子大学 〒577 東大阪市菱屋西4-2-26	⇐ 京都大学宇宙物理学教室
小杉城治	国立天文台 研究生	⇐ 京都大学宇宙物理学教室
山田 亨	理化学研究所 宇宙放射線研究室 基礎科学特別研究員 Tel 048-462-1111 (3227)	⇐ 京都大学宇宙物理学教室

### 【連絡先、住所等変更】

土居 守	東京大学天文学教室 (帰国)
名古屋大学の電話番号	
野口邦男	052-789-2926
松原秀雄	052-789-2560
松本敏雄	052-789-2452
花輪知幸	052-789-2841
福井康雄	052-789-2837
佐藤修二	052-789-2923
山下広順	052-789-3540

住所、所属等に異動のあった方は速やかに事務局までお知らせ下さい。

---

事務局だより

ようやく事務局の仕事から解放されます。さすがに年4回の会報の編集と発行は大変ですね。事務局の苦勞がよくわかりました。会報もいずれ電子メール化して、事務局の負担を軽減したいものです。(でも電子メール化すると会報にする必要はないようにも思えますが。)せっかく事務局が終わったのですが、個人的にはまだ光天連の仕事からは逃れられないようで、がっくしです。この春は、桜を見に行くこともできず、なにかとフラストレーションの溜る今日この頃です(いつも?)。(太)

事務局長 大谷 浩 (075-753-3894)  
会計 長田 哲也 (075-753-3869)  
庶務 太田 耕司 (075-753-3896)

---

---

光学天文連絡会会報 第71号 平成6年4月28日発行

編集 太田耕司

発行元：光学天文連絡会事務局  
京都大学 理学部

〒606-01 京都大学理学部宇宙物理学教室  
Tel 075-753-3894/96 Fax 075-753-3897  
e-mail ohta@kusastro.kyoto-u.ac.jp